

医院・診療所便り

～総合病院との連携について～

仏光寺診療所
院長
小西 正昭



当院は平成元年に開業しましたが、康生会武田病院とは当初から地域の基幹病院としてずいぶん長くお付き合いをいただいています。

病診の連携が確固となったのは開放病床が設置され、患者さまをお任せするようになってからだと思います。その当時は時間的に余裕があったため、しばしば患者さまのベッドサイドに訪問し、担当医から病状説明を受けたものです。そしてナースステーションに立ち寄り共同指導箋を記入して帰ったのが懐かしく思い出されます。

その後、3、4年して病診連携室ができましたが、これによって病診連携の利便がずいぶん図られるようになりました。忙しくされている担当医の仕事を中断して直接説明しなくても、連携室が間に入って調整し、簡単な用事ならFAX文書で担当医に連絡し、情報提供をすることも可能となりました。今ではほとんどの総合病院が地域連携室を設けていますが、武田病院はその先駆者であったかと思えます。他院と異なるところは係りの方がソフトに対応し、当方の意向を即座に汲んで動いていただけることでしょうか。役所的なところがなく安心してお任せすることができます。

紹介患者さまは、外来は放射線科を中心に、救急（時間外）を含めると毎月かなりの数になります。入院は内科、外科を問わずいつも誰かがお世話になっています。担当医からの報告書は的確詳細で、退院された後の外来フォローにずいぶん役立っています。最近、頂戴し

た消化器患者さまの報告書には非常に感銘を受けました。詳細なサマリーと検査所見コピーが全て網羅され、CPCの結果報告を見るのがとくで、大変勉強になりました。また、専門的治療を要するような疾患を合併した患者さまは、その方のフォローと治療を願ひし、併存する慢性疾患については当方で診ていくという役割分担が自然に出来上がっています。何かの症状が出た時などは当方でいつでも診察いたしますので、患者さまはとて安心されます。

地域医療連携室には、患者さまの外来受診や入院以外にも大変お世話になっています。最近の事例ですが、紹介しました独居老人が術前処置の時、何かの勘違いをされ、突然無断で外出されました。その旨、当方にも連絡があり、行方を探しましたが、この時は連携室が忙しい時間帯にもかかわらず親戚や知人に電話し、最後には患者さまの自宅まで訪問していただき、事なきを得てほっといたしました。その他、入院とは直接関係のない事例でも、関連病院や関連施設について相談することがあります。訪問診療をしている患者さままで、介護困難な状況となってしまったため、関連の介護医療施設の空きベッドの問い合わせをお願いしたところ、労をいとわず入所の段取りまでしていただきました。私どもにとって介護関連施設への入所については、介護保険導入後は直接かわる変化が少なくなったとはいえ、急激な病状の変化や介護力の限界が生じた時、介護施設への緊急入所を諸所要請しなければなりません。空きベッドがなく連絡に時間を取られ入所に至るまで難渋することがよくあります。この事例のように関連施設への入所についても病診連携の延長線上の仕事として私どもにアシストしていただくと非常に助かります。今後も武田病院にお世話になった患者さまについては可能な限り相談に乗っていただきたいと思います。

もう一つの要望は、救急患者さまを紹介した時、あいにく空きベッドがなく、遠方の他院に転院されてしまったことが何回もありました。患者さまにとって知らない所はとて不安に思うと同時に、遠隔地だと非常に心細くなってしまいます。空きベッドがない時は夜遅くであっても、ぜひこちらへ連絡していただきたいのです。当方からも患者さまに事情を説明すれば、ひとまず安心されます。この1、2年こういう事例はなくなりましたが、再度お願いしておきたいと思えます。

開業当初から「患者さまの話を十分耳を傾け、患者・家族の方々とは心通わせる医療」をモットーに、地域に根ざした「かかりつけ医」として診療を続けています。当院は商業・住宅地域の真ん中に位置し、近くの総合病院として同じ距離に武田病院と第一、第二赤十字病院があります。各病院とは緊密な病診連携のもと患者さまの要望や状況に応じて紹介先を決めています。上述の現況が示す如く、最近では武田病院への紹介がかなり多くなっています。今後も武田病院グループとより緊密な連携体制を継続し、なお一層信頼関係が深まることを願っています。



〒600-8074
住所：京都市下京区仏光寺通高倉角
電話：075(351)3095 FAX:075(351)0665
診療科目：内・胃・循環器

地域医療連携室から

放射線科では、昨年3月に最新の16列マルチスライスCT装置を導入し、短時間で検査が可能となり患者さまの負担を軽減しつつ、かつ高詳細の画像が得られるようになりました。

また、東芝が主催する画像コンテストで一昨年と昨年に続き本年もCT、MRで3つの賞をいただきました。平成16年4月には、より迅速に検査結果をお伝えできるように、ご依頼いただいた検査結果を電子メールでの送信やインターネットを通じて検査画像を閲覧していただくシステムの運用を開始させていただきました。今後も患者さま、諸先生方にご満足いただけるよう、ハード、ソフトの向上に絶え間ない努力を重ねてまいります。

検査についてのお問い合わせ、予約など検査予約センターへお気軽にお知らせいただけます。直ちに対応させていただきます。先生方の検査室としてご利用いただけますよう心よりお願い申し上げます。

先生方には、情報提供書や保険情報のFAXなどにより、患者さまの待ち時間短縮にご協力いただいております。ありがとうございます。

放射線科では、昨年3月に最新の16列マルチスライスCT装置を導入し、短時間で検査が可能となり患者さまの負担を軽減しつつ、かつ高詳細の画像が得られるようになりました。

また、東芝が主催する画像コンテストで一昨年と昨年に続き本年もCT、MRで3つの賞をいただきました。平成16年4月には、より迅速に検査結果をお伝えできるように、ご依頼いただいた検査結果を電子メールでの送信やインターネットを通じて検査画像を閲覧していただくシステムの運用を開始させていただきました。今後も患者さま、諸先生方にご満足いただけるよう、ハード、ソフトの向上に絶え間ない努力を重ねてまいります。

検査についてのお問い合わせ、予約など検査予約センターへお気軽にお知らせいただけます。直ちに対応させていただきます。先生方の検査室としてご利用いただけますよう心よりお願い申し上げます。

医療法人 財団 康生会 武田病院
(連絡先) 地域医療連携室
TEL 075(361)1352(直) / FAX 075(361)1268

検査予約センター
TEL 075(351)1132(直) / FAX 075(361)1268

E-mail renkei-e@takedahp.or.jp URL http://www.takedahp.or.jp/ 室長：松山 則彦



たけだメディカルニュース

Vol.11 発行日 平成16年3月1日

理念	
思いやりの心	
基本方針	環境方針
ブリッジ・ザ・ギャップス 患者さんの権利の尊重 信頼の医療に向けて 地球にやさしい環境づくり	省資源・省エネルギー 廃棄物の減量化 リサイクルの推進 安全性・快適性の推進 環境広報活動の推進

発行 武田病院グループ
京都市下京区塩小路通西洞院東入ル
TEL 075-361-1351(代)
発行人 武田 隆久

医療法人財団康生会 武田病院 泌尿器科 特集

京都大学大学院医学研究科泌尿器科学教室のメインテーマは21世紀の医療とされる、癌医療、移植・再生医療、生殖医療の3本柱です。私自身が腫瘍学を専門にしていることもあり、なかでも前立腺癌を中心とする泌尿器科の診療と基礎的、および臨床的研究が最大の柱になっています。基礎的研究では、遺伝子解析などの分子生物学的アプローチを用いた癌研究を行っていますし、臨床面では、体腔鏡などを応用した低侵襲医療など、癌患者さまの生活の質(QOL)にも配慮した集学的高度先端医療を目指しています。



京都大学大学院
医学研究科泌尿器科学
教授 小川 修

前立腺癌の診療・研究最前線

私自身は、1989年に京都大学大学院に入学後、泌尿器科癌の発生や進展に関する遺伝子研究を開始しました。当時は日本人男性での前立腺癌の発生頻度があまり高くなかったため、はじめは腎臓癌や膀胱癌の遺伝子研究をメインテーマとしていました。しかし、93年に国外留学から帰学したところ、日本においてもPSA(前立腺特異抗原)検査や経直腸超音波ガイド下の前立腺生検が広まり始めたこともあって前立腺癌が急増しつつあり、それがきっかけで前立腺癌研究を中心に行うようになりました。

最初に着目したのは欧米人と日本人における前立腺癌発生頻度の大きな差です。欧米では男性の癌の第1位を占める前立腺癌ですが、日本を含むアジア諸国の頻度はその10分の1程度です。癌は環境要因と遺伝要因の相互作用で発生すると考えられています。したがって、癌になりやすい遺伝的素因を同定できれば、癌発生に関係する環境因子もさらに明らかになると考えられます。このようなアプローチ法を分子疫学と言いますが、この方法を用いて男性ホルモンの代謝に関係するいくつかの遺伝子にみられる個人差(遺伝子多

型)が発癌リスクと関連するという研究成果を報告しています。また、進行性前立腺癌の代表的治療となっているホルモン療法の効果に関する遺伝子研究も行っており、ホルモン応答性の分子機構を解明しようとしています。

一方、臨床研究においても泌尿器科癌に対する新規抗癌剤治療、尿管型代替膀胱作成手術など、時代時代における最先端の医療を他施設に先駆けて導入してきました。90年からは体腔鏡下手術を泌尿器科疾患の治療に取り入れ、現在では体腔鏡下の前立腺癌手術を高度先進医療として行っています。さらに最近では急増する前立腺癌に対応すべく、放射線治療部門との連携で「前立腺癌高度診断治療ユニット」を開設しました。特に限局性の早期前立腺癌の治療法は極めて複雑多様化しており、治療法決定にはその治療効果のみならず、患者さまの全身状態や生活の質(QOL)を考慮に入れた高度の判断が必要となってきています。このユニットでは、手術、放射線治療、無治療経過観察などさまざまな治療選択肢を提示しながら、より良い前立腺癌治療のための診療と臨床研究を推進しています。

今後の課題

前立腺癌の基礎研究の問題点は、いまだ実際の患者さまのお役に立つ研究成果が出ていないことです。現在は、患者さま自身や癌の個性診断を行って、個々の患者さまに合った癌の予防、診断、治療を行うことのできるような時代になってきました。基礎研究を推し進めることによって、近い将来、本当の意味での「患者さまのための癌診療」を行いたいと思っています。

臨床研究における問題点は、京大病院単独で治療できる患者さまの数が十分でないため、しっかりとエビデンスを

出せるだけの研究体制の整備が難しいことです。私たちは、京大病院に先ごろつくられた「探索医療センター」との共同で、他施設共同研究のための基礎整備を始めています。これが可能になれば、世界に発信できる大きな成果が出せる可能性があります。

以上のような課題を達成していくためには、これまで以上に患者さまへの情報公開を推し進めていくことが必要です。泌尿器科では患者さまのための情報公開ホームページ(<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~urology/index.html>)を立ち上げ、社会に開かれた医療を展開しようとしています。

武田病院グループの利点

泌尿器科というのは特殊な科で、単独で専門科になっていませんし、開業の先生方で泌尿器科というものはほとんどありません。ですから直接、武田病院に外来で来られる患者さまも多いのですが、十条病院など泌尿器科の専門医を持たないグループ病院からの患者さまの受け入れや、下西医師会に所属されておられる開業医の先生方からの紹介患者さまがかなりの部分を占めています。

例えば、在宅で寝たきりの方で泌尿器科領域の病気がある場合、かかりつけの先生が診ておられないことも、専門科ではないので専門的な治療はできないことがあります。大学病院での受け入れが難しい時には、武田病院に入院してもらって急性期治療をします。破砕などの治療を要する時には医仁会武田総合病院で手術治療するなど、診断や治療に滞ることはありません。その後開業医の元へお帰りいただくなどスムーズな対応ができる大きな利点です。



康生会武田病院
泌尿器科部長
堀井 泰樹
(ほりい・やすき)

1979年京都大学医学部卒業。同年同大学泌尿器科教室入局。80年大阪赤十字病院、89年京都大学泌尿器科助手、92年北野病院泌尿器科副部長、98年奈良社会保険病院泌尿器科部長、2002年より現職。日本泌尿器科学会指導医、日本不妊学会評議員

チェック機能

開業医の先生方は、患者さまの「尿が出にくい」「尿に近い」「尿が漏れる」といった症状に対し薬を投与されるとき、専門科ではないので投薬だけを続けることに不安があるかと思えます。そういった患者さまが紹介で来られた時、検査と診断だけで済む場合には、武田病院で病状の確認など初期対応だけして、かかりつけの先生に継続治療していただくことで患者さまにも安心感ができます。

そのほかどんな些細なことにも積極的に対応し、開業医の先生方を支援できるようにしています。

前立腺肥大症

武田病院では温熱療法を初期のころから取り入れてきました。しかし、前立腺の手術は現在でも内視鏡下による切除手術（TURP：経尿道的前立腺切除術）がゴールドスタンダードとされています。ただ、出血量の多さや技術に熟練を要することが問題で、他のレーザー療法などが開発されているのですが、効果としてはTURPが優れていると考えます。武田病院では担当の2人が10年から20年以上の経験があり、治療効果や安全性が高いことから、患者さまからの信頼を得ています。

前立腺癌

京都大学は伝統的に前立腺癌の治療に積極的であり、私も積極的に前立腺癌の臨床に取り組んでおり、当院でも症例が増えてきています。

PSAが普及してきて、初期の前立腺癌が多く見つかるようになりました。以前は症状が出ることで発見されていたため、高齢者が中心だったのですが、比較的若い人の間でも前立腺癌を心配しPSAを検査する人が増加してきています。つい最近では50歳の患者さまの前立腺全摘出を行いました。治療後の経過も良好です。

比較的悪性度の低い前立腺癌に対する放射線療法と手術療法の予後（10年）が変わらないため、高齢の方で平均余命が10年というような患者さまには、侵襲が大きい手術療法より放射線療法を選択すべきではないかなど判断が難しい面があります。一方、若い人には平均余命や病変などを考え合わせた上で、手術療法がベストだと考えます。

症状と検査

前立腺癌スクリーニングには、腫瘍マーカーと直腸診、経直腸的前立腺エコーがあります。腫瘍マーカーの検査で大部分の癌のスクリーニングが可能となります。スクリーニングで前立腺癌が疑われる場合には経直腸的にエコーを見ながら6力所以上切片を取る生検を行います。

症状には排尿困難や尿が近くなる頻尿があります。これらの症状があった時には癌病変が相当大きくなっていると考えられ、手術によって根治できる可能性が少なくなってきました。前立腺癌を早期発見し根治する一番のチャンスは、スクリーニングの腫瘍マーカーです。症状がなくても50歳になれば、血のつながった近親者に前立腺癌のおられるリスクの高い方は40歳代から腫瘍マーカーのスクリーニングをお勧めします。

腹腔鏡下手術の様子



結石治療

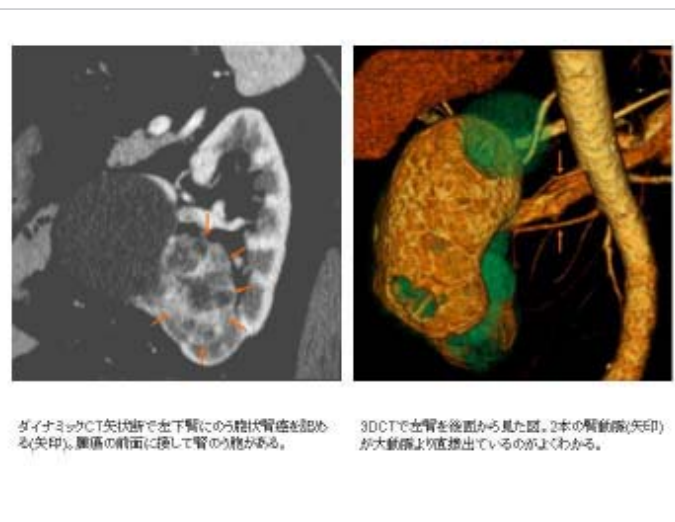
救急病院である当院には、結石の患者さまがたくさん来られます。大半は自然に排出しますが、緊急処置が必要な場合には、比較的小さな石であれば医仁会武田総合病院でESWL（体外衝撃波結石）を行い、大きなものは内視鏡的破砕や経皮的破砕など当院で手術的処置を施します。ただ、体外衝撃波と組み合わせる場合場合は医仁会と連絡を密にとり行っています。いずれにせよ当院でも医仁会同様に緊急対応をしておりますので、安心してお任せください。

腹腔鏡下手術

昨今、腹腔鏡下手術の合併症が問題化しましたが、外科領域で腹腔鏡下胆嚢摘出術が標準化しているように、本来腹腔鏡下手術は低侵襲で体に優しく、開腹手術に比べ術後の回復が早く、また出血量も少ない手術であり、今後患者さまのニーズが増えてくる手術だと考えます。当院では腎癌の患者さまを中心に腹腔鏡下手術を行っています。

患者さまのニーズに応える

当院ではそれぞれの患者さまのニーズに応えられるような治療を心がけ、同時に武田病院グループの支援体制のもと、医療レベルは標準以上を保つように努めています。寝たきりの方の受け入れや患者さまの日程に合わせて手術を行うなど今後とも患者さま本位の治療を目指します。



ダイナミックCT矢状断で右下腎にのう腔状腎癌を認め(矢印)。腫瘍の前面に接して腎のう腔がある。

3DCIで右腎を後面から見た図。2本の腎動脈(矢印)が大動脈より直接出ているのがわかる。

STUFF

康生会武田病院 泌尿器科医長 岡 裕也 (おか・ひろや)

1986年愛媛大学医学部卒業。天理よろづ相談所病院、京都大学附属病院、京都市立病院、96年京都大学医学部大学院卒業。99年神戸市立神戸中央市民病院泌尿器科医長。2004年4月より現職。
日本泌尿器科学会指導医

